

男 女 群 島

東あ会公式ガリドブツリ



初 版平成11年12月発行
第 2 刷平成12年12月発行

君も"夢の島：男女群島"で尾長グロを手にししてみないか

あなたは、初めて釣ったキログロの 感動を憶えていますか？

鋭いつっこみ 粘り強い引きをしのいだ者だけに与えられる勲章！

水面下に見え隠れする青黒い巨体を目にしたときの手の震え足の震えを・・・

ハリスを切られはしないかと 胃が痛くなるほどハラハラしたときのことを・・・

手にしたときの 掌が熱くなるような重みを・・・その感動を、いやそれ以上の感動を手にするのが、60cmオーバーの尾長グロなのです。

さあ、一緒に男女群島へ出かけましょう。



1 行程

おおまかな行程は次のようになります。

- 前 日 22:00 出航（平戸口）
- 1日目 2:00 男女群島着 上磯開始
- " 10:00 1回目瀬替わり
- " 16:00 2回目瀬替わり（夜釣り場所へ移動、船泊まりはこれで回収）
- 2日目 4:00 3回目瀬替わり（船泊まりはこのとき上磯）
- 10:00 4回目瀬替わり（場所・天候によってはしないこともある）
- 12:00 回収
- 16:00 帰港（平戸口）

これは、あくまで予定です。東シナ海にぼつんと浮かぶ男女群島です、まして季節は冬、天候が急変すれば、あっという間に時化てきます。道具類はコンパクトにまとめ、すぐに回収できるように準備しておきましょう。

2 仕掛け

昼用（口太グロ用）と尾長グロ用に分けて説明したいと思います。基本的に、男女群島へは、トロフィーサイズの尾長グロを釣りに行くわけです。口太グロのキロオーバーは、近場の釣り

場でも釣ることができます。お土産釣りに、はしたためにせっかく当たった大物をバラしてしまった、とならないように、できるだけ太仕掛けで臨んだ方がいいと思います。

尾長グロは、釣り人の油断を見透かしたように、よそ見をしているときや、仕掛けを細くした途端当たってくることが多いように思います。これで、私を含め多くの釣り人が苦渋を飲まされていることを忘れないでください。

ここでいう昼とは、一回目の瀬替わり以降と3回目の瀬替わり、時間にして10:00～16:00のことです。それ以外は、夜釣りと考えてください。

（1）昼用（口太用）タックル

対象となるのが「口太グロ」の40～50cm、1～1.8kg程度です。通常、あなたが、五島釣行で使っているタックルを少し大きくするだけで、十分だと思います。

ただし、水道周りや離れ瀬などのいわゆる「大場所」では、次に述べる尾長グロ用の昼用タックルを使用した方がいいと思います。

(2) 尾長用タックル

《参考》

夜用 【()内は私のタックル】

- ・ 竿：2～3号程度
(グレパシヤル遠征2号)
- ・ リール：7～8号道糸が100m程度巻けるLBタイプ
(ダイワ 850LB)
- ・ 道糸：7～8号
(70-ト系の7号)
- ・ うき：0.5～1号程度の円錐うき(タチウオ対応)
(浦島円錐0.5～1号)
- ・ 水中うき：うきの浮力に合わせて使用
(うきの浮力に合わせて使用)
- ・ ハリス：700カーボン7～8号
(東レLハート 7～8号)
- ・ 針：マダイ針10～11号
(オキナマダイ針10～11号)

8号等の太ハリスで針を結ぶ場合、強く締め込まないとすぐにゆるみます。歯が弱い人は、プライヤーできつく締めることをおすすめします。
また、必ず巻グセを取ってください。

昼用

- ・ 竿：2～3号程度
(グレパシヤル遠征2号)
- ・ リール：4～5号道糸が150m程度巻けるLBタイプ
(ダイワ 850LB)
- ・ 道糸：4～5号
(70-ト系の5号)
- ・ うき：0.5～1号程度ドングリ
(浦島円錐0.5～1号)

- ・ 水中うき：うきの浮力に合わせて使用
(うきの浮力に合わせて使用)

- ・ ハリス：700カーボン4～5号
(東レLハート 4～5号)
- ・ 針：ハリスとバランスが取れていればなんでも可
(オキナマダイ針4～5号)

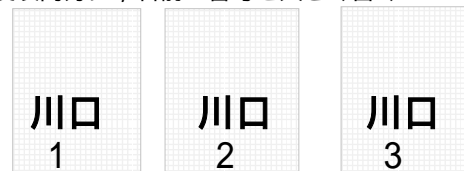
3 えさ

「撒き餌」

オキアミ1角に対し集魚材1袋程度準備します。夜は撒き餌の投入位置が分かりにくいので、アミを混ぜると光って分かり易いと思います。撒き餌の量を増やすため、パン粉を使用する事が多いと思いますが、男女群島は水深が深いためかあまり効果が無いように思います。

また、瀬上がり・瀬替わりのとき、船のデッキはごった返します。最初にもって上がる以外は、土嚢袋に入れ、番号と名前を大きく書いておく間違えずに便利です。(図参照)

裏表両方に、名前と番号を大きく書く



「付け餌」

夜釣り用は、チヌ用のLLサイズの物がいいと思います。ここぞというときは、2匹掛けした方が有利だと思います。昼釣り用は、撒き餌から取ってもかまいません。

☺ 撒き餌の大体の目安

	番号	時 間	オキアミ	アミ	集魚材	備 考
1日目	1	2:00～10:00	2	1	2	オキアミ2・集魚材2は別に持って上がる
"	2	10:00～16:00	2		2	別袋にしておく
瀬泊り	3	16:00～4:00	1	1	1	別袋にしておく
2日目	4	4:00～10:00	2	1	2	別袋にしておく
"	5	10:00～14:00	1		1	別袋にしておく

4 釣り方

まず瀬上がりをするせ、荷物を安全な所へおいたら、ヘッドキャップ等で瀬の様子をよく観察してください。夜釣りに明かりは禁物ですが、瀬付けの際船のライトで照らしているので関係ありません。沈み瀬の位置やハ工根の位置を確認し、釣り座と取り込み場所を決めておいてください。確認を済ませたら、撒き餌を作り、タモを組み、仕掛けを作ります。このとき、夜食も済ませておきます。それ以後は、一切明かりを点けないのが夜釣りの原則です。ただし、本命がヒットしたら明かりを点けて、同磯者に拘ってもらった方が無難です。

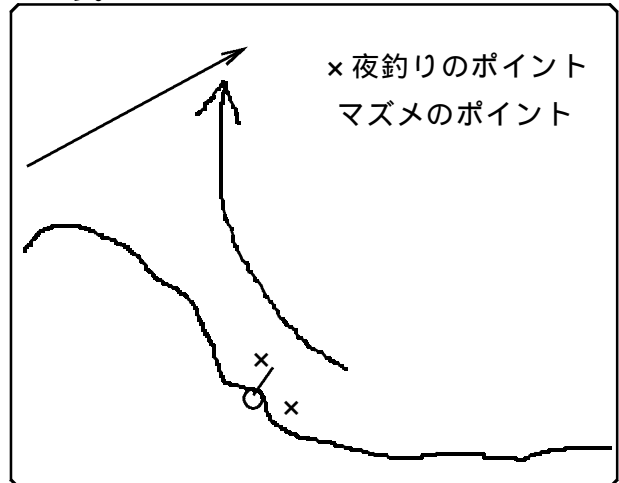
次に釣り方についてですが、夜釣りについて「ポイント」、「たな」、「やり取り」に分けて述べたいと思います。

「ポイント」

私の場合、夜は足下、夜が明けたらそれまでの撒き餌が利いている沖目が、ポイントと考えています。足下に仕掛けを投入し、撒き餌をかぶせ4~5m位沖まで流して探ります。ほとんどの場合、最初はミナミハタンボやアカマツカサといった餌取りが当たります。それでも我慢して釣り続けてください。そのうち餌取りの当たりが減り、餌が残ってくるようになります。大物が寄ってきた証拠です。ほとんどの場合、次の投入で当たります。当たらなかったときは、半尋づつたなを深くして行ってください、必ず当たると思います。このあたりの要領は、チヌ釣りの感じと同じです。

だんだん夜が明けてくると、口太グロが当たり出すと思います。その場合、沖目に狙いを替えます。夜の間に足下に打った撒き餌が、必ず沖の方で利いているはず。潮の流れをよく観察し、その場所を見つけましょう。私の表現力では、これを文章で説明することができませんが、あえて言わせてもらおうと「心のまなこ」で見れば、魚の泳いでいる場所がわかるとも言うしかありません。その場所を探したら、ダ

イレクトに仕掛けを投入し、撒き餌もかぶせましょう。



「たな」

まず4尋から始めます。たな取りは、「餌が残れば深く」、「餌が無くなれば浅く」というのが大原則ですが、私の場合、深くすることはあっても、根掛かりでもしないかぎり浅くすることはほとんどありません。たなが浅かったため、せっかく当たった尾長グロを針はずれでバラしたことが何度かあるからです。飲み込ませてしまえば、バレることはありません。また、その方がやり取りも楽なような気がします。尾長グロの鋭い歯を心配されるかと思いますが、8号ハリスを切れるような歯ではありませんのでご安心ください。

「やり取り」

ためて、ためて、ためまくれ！これに尽きると思います。

ちょっと詳しく説明します。まず、リールのベールは常に起こしておいてください。糸の出は、スプールに指を掛けコントロールします。尾長グロは突然当たります、それも当たった瞬間から全速力です。瞬時に糸を出すことができないと竿を起てることができません。暗い海に漂うケミホタルの淡い光が、まるで手品のようにパッとなくなります。と同時にスプールに掛けた指がはじかれ道糸が勢いよく走り出します。

次に、魚が掛かったらベールは起こしたまま

(系を出しながら)竿を起ててください。十分に起てたところで、ベールを戻しストッパーをオフにしてください。さあ、これからが、やり取りの始まりです。この一瞬のとときめきを、感動を味合うために、はるばる130kmを航海して男女群島までやって来ているのです。がんばってください。

尾長グロはやっかいな魚です。同じクロという名前が付いていますが、口太グロとは別の種類の魚だと思ってください。その体型、スピードや歯は、イズスミとよく似ています。しかし、イズスミは、3kgの大型でも比較的楽に上がります。また、大型サンノジもよく引きますが、これも時間をかければ取り込むことができます。尾長グロが取り込みにくいのは、底根を巻いて走るからです。8号ハリスといえども、瀬に擦られればひとたまりもありません。ましてや、男女群島は珊瑚だらけです。バラした後ザラザラになったハリスをさわり悔しさを噛みしめるのは私だけで十分です。

ところで、竿の弾力が一番発揮されるのは、竿尻が魚の方を向いているときと言うのをご存じでしょうか？ この角度を保つためにLBリールはあるのです。また、魚は、引っ張られた反対の方向へ走るというのをご存じでしょうか？ そのために竿を寝かせたり、まわしたりと操作が必要なのです。

やり取りを始めた時点で、既に10~20mは道系が出てるのではないかと思います。それから、自分の仕掛けを信じ、竿の弾力を生かしひたすらためてください。系を出すのは竿の角度が保てなくなったときだけです。最初のひとしをためているときは、リールを巻けないと思いますが、次第にリールが巻けるようになってきます。慎重に間合いをつめてください。比較的楽に寄ってくるはずです。ウキが見えだした頃、これで終わりではありません、これからが第2ステージの開幕なのです。油断してはいけません。足下に来て2度3度と鋭くつつこむはずで、すぐ反応できるよう、心の準備をしておい

てください。この引きは、何度味わっても楽しいものです、十分堪能してください。

腕もしびれた 腰萎えた
激闘既に数十分
あ！ 浮いた 浮いた 浮いたよ
浮いた 浮いた
デカバン デカバン タモ取って
・・・東あ会応援歌より

いよいよタモ入れです、いきなりライトを当てると驚いて暴れ出すので用心してください。魚をタモで掬うのではなく、タモの所へ魚を誘導していくような気持ちで掬うとうまくいきます。一人で掬う場合は、(私は右手に竿を持っているのですが、)魚を一度右に振りそこでタモを出し、今度は左に反転させタモまで誘導するとうまくいくようです。

初めて釣った尾長グロです、魚拓を取るときのことを考えて鱗が傷つかないようにしましょう。魚が直接岩に当たらないように、ドンゴロスやタオルの上でしめるといいと思います。

また、魚に向かって左を頭にしてしめると魚拓になったとき、傷が無くきれいです。

5 食料

1日目 夜食・朝食・昼食

(弁当3食 カップ麺1食程度)

” 夕食

船から1~2食分の弁当が配られますが、おかずがほとんどありません。焼き肉・鍋物などの準備をしておく楽しい磯宴会できます。ただし、飲み過ぎて寝過ごさないようにしてください。

小さめのクーラーを準備しておくビール・肉など冷やせて便利です。(瀬泊り場所に持って上がります。)

船からもらう弁当は、冷えてしまっています。雑炊の素を持っていけば暖かくておいしい雑炊が食べられます。

2日目 朝食・昼食 缶詰などのおかず類とパンなど準備しておくといいいでしょう。

6 準備物

行程のところで述べたように、天候が急変すれば、あっという間に時化てきます。道具類は大きなバックに何でもまとめて入れて磯に上げるのではなく、小さな磯バックに分けて入れてください。ポーターも重たい荷物はいやがります。

- (1) 竿 袋
- (2) 磯バック 20リッター程度
- (3) バッカン 撒き餌入れ
- (4) ドングロス 瀬泊り以外はクーラーを持って上がりませんので魚を入れておき、見回りのとき船に置いている大型クーラーに入れに行きます。そのまま使うと魚が乾燥しますので、海水で濡らして使用します。
- (5) えさ5袋 船に置いておいて、見回りのとき取りに行きます。
- (6) クーラー（大型） 船に置いておき魚を保冷します。

新たにクーラーを購入するときは、40～50リットぐらいがいいと思います。安価なものでもかまいません。（お薦め イグロ-54）

- (7) クーラー（小型） 食料を保冷し、瀬泊まり場所に持って上がります。
- (8) 瀬泊まり用お泊まりセット 寝袋・コンロ・鍋・水等

保温性を高めるために、寝袋カバー、アルミマット等も持っていった方がいいと思います。

7 最後に

遙か男女群島まで遠征しても、同じ釣り人として悲しいことですが、どの磯に上がってもゴミが散らかっています。自分さえよければ、誰も見てないから、みんなやってることだし、といった戦後日本の経済復興と共に蔓延した風潮が、そのまま釣り場に持ち込まれているように思います。

私が、本格的に磯釣りを始めて早いもので20年になります。釣りマナーの向上が叫ばれて久しいのですが、なかなか向上しないのが現状です。船上や磯でマナーのいい釣り人を見ると、爽やかな気分になります。自戒を含め、せめて我が東あ会の会員には、他の規範となるような釣り人になってもらいたいものです。自分のでさえおっくうなのに、人が散らかしたゴミまでかたづけるのはイヤなものです。しかし、きれいな釣り場は気持ちがいいものです、また、私の経験から言わせてもらえば、ゴミ拾いをしてから釣り始めるとよく釣れるような気がします。

釣りは、大人が子どもに戻れるすばらしい遊びだと思います。職場や世間的なしがらみから開放されたところで純粋に遊んでいるからではないかと思います。しかし、この遊び場で楽しむには、ルールがあります。

(1) 安全管理

魚が釣れなくてもあなたの家族は、飢えることはありませんが、あなたにもしものことがあれば、路頭に迷ってしまいます。

(2) 磯の美化

「来たときよりも美しく」「よごすまい明日もみんなが来る釣り場」この精神でいきたいものです。

(3) 船内でのマナー

いったん船に乗ってしまえば、板子一枚に命を預け、共に荒波を越える、志を同じくした仲間だと思っています。お互い思いやりの心を持ちたいものです。

それでは、グッドラック！

平成11年12月9日

文責 東あ会会長 川口 寛